

ドイツ連邦食料・農業省プレス公告
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 2

NO 2

2016・1・16

1 第8回ベルリン農業大臣サミットが最終コミュニケを採択
ー2016ベルリン世界食料会議の開催ー

ベルリン農業大臣サミットによる共同コミュニケの採択でもって、第8回食料と農業のためのグローバルフォーラム（GFFA）-2016ベルリン世界食料会議が閉会した。この会議のテーマ：「我々は、どのようにして都市を扶養するか？ー都市化する将来における農業と農村地域」

世界規模での農業大臣サミットにおいて満場一致で採択されたコミュニケの中で農業大臣は、グローバルな協議課題を政策的な優先として認めるよう要請した。これは、農業無しに都市化は、持続的に成功できないことを、納得させる。そのため、これは都市と農村地域の結束において、都市化は具体化されることを、強く示している。

大臣は、行動のためのアピールにおいて説明した：生産的そして持続的な農業を創出するために、政治的、経済的そして社会的な大枠条件を設定することを、自らの義務として考え、努力すること。ベルリン農業サミットは、GFFA2016ーベルリン世界食料会議の頂点と終結をもたらした。木曜日以来、100カ国以上の国々から約2000人の参加者が、テーマ・都市化の時代における農業と農村について、様々な関連行事の中で集中的に議論した。

都市化は、人類の将来テーマの1つである。増大する都市の人々への食料供給は、特別な挑戦である。このことは、国連事務総長バン・ギムンも、GFFA 2016のビデオメッセージの中で強調している。農業は、飢餓の解消目的達成のために、増大する都市の中心地に栄養豊かな食料の送り込みを保証する。

連邦大臣シュミットの言葉によると、都市化は持続的、効率的な農業との共同活動でもってのみ、成功することができる。”農業と農村地域は食料を供給することから、都市の人々の食料確保のための鍵である”と、シュミットがベルリンで述べた。”我々は、農村地域から孤立した都市において、飢えからくる不安を回避しなければならない。

そのため、私は各国の同僚大臣を、ベルリンでの農業大臣会議に招待した。我々は、この挑戦に共同で取り組むこと、そしてそれを意識づけることを、増大する都市に力をこめて要請する。農村無しに都市での生活は、成り立たない”と、シュミット大臣が述べた。

2 シュミット大臣：農村地域の課題の実践的な解決を ー連邦食料・農業省に専門家委員会を設立ー

農村地域発展のための専門家委員会（SRLE）は、今日連邦食料・農業省に設立された。この専門家委員会の委員長に、Dr. 教授有資格 ハンスーギュンターヘンネケが選任された。彼は、社団法人・ドイツ全国郡連絡協議会の会長である。連邦大臣シュミットが、この委員会設立に関して説明した：”我々は、農村地域を強化したい。農村は、人々のために生活の質的向上と将来性を、提供しなければならない。強化されそして活力ある農村地域は、ドイツにおける社会的、経済的公平さの保証のための、決定的な前提条件である。

私は、農村地域発展のための専門家委員会が、農村地域の奨励に際して、我々に助言でもって支援してくれることを、喜んでいる。この委員会のメンバーは、農村地域に深く根づいており、特色をもった人物である。このことは、実践的なそして変革できる成果を期待させる。各委員の持っているノウハウでもって、農村地域発展について実行力のある支援を、我々に与えてくれる。特に構造的な問題と人口上の変化について。私は、共同でそして成果多い共同活動を、大いに喜んでいる。”

背景

増大する挑戦（例えば、人口上の進展、経済的な不均衡、生活への備えとインフラ構造についての調整の必要性、環境ー消費者の視点からの要請）、そして農村地域のテーマの多様性、複雑性が、連邦大臣シュミットにこの委員会設立を決定させた。この専門家委員会は、2015年10月27日付けの連邦大臣の条例公布でもって、今日設立された。

この委員会の課題は、農村地域発展のための連邦食料・農業省の政策への側面支援である。また委員会は、農村地域における不足と対策の必要性を、しかし、農村地域のチャンスもまた提示すること、並びに具体的なそして実現可能な問題解決のきっかけを、提言することである。また、問題に対する自らの見解表明、評価、推薦を述べる。特に、以下のテーマ上の問題について、検討する。

- ◇ 人口、農村生活のための備え、社会福祉と生活関係
- ◇ 経済、労働と金融
- ◇ 土地利用、環境と保養

この委員会は、男女6名ずつ、計12名で構成されている。この構成は、助言活動に際して重要となっている農村地域の各分野を反映している。

構成メンバー

- 1 有限会社・ブロイニガー基金代表者 Dr. ヘルガ ブロイニガー
- 2 社団法人・ドイツ農村青年連盟会長 マテイアス ダウン
- 3 社団法人・ドイツ連邦食料流通連盟会長 フリートヘルム ドールンザイファー
- 4 社団法人・国民銀行・ライファイゼン銀行ドイツ連盟会長
ウーヴェ クレーリッヒ
- 5 社団法人・ドイツ観光連盟本部長 クラウディア ギーレス
- 6 社団法人・全国郡連絡協議会会長 Dr. 教授有資格 ハス グエンター ハンネ
- 7 社団法人・ドイツ手工業女性連盟会長 Dr. ゲラルド ランツ ベルグ
- 8 社団法人・ドイツ景観保全連盟会長 クリスチーナ クレッシュマール
- 9 社団法人・ドイツ都市一市町村連盟会長 Dr. ゲラルド ランツベルグ
- 10 ニーダーハイム大学 栄養学専門領域社会一市場研究
Dr. 教授有資格 クラウディア ノイ
- 11 社団法人・農村女性連盟会長 ブリギッテ シュエルプ
- 12 チューネン農村地域研究所所長 Dr. 教授有資格 ペーター ワインガルテン

3 連邦農業省は国際獣医共同活動を強化

Dr. デイトリッヒ ラースゾウは、国際獣医副主任（CVO）である。これは、連邦食料農業省に新しく設置されたポジションである。連邦大臣シュミットは、国際獣医共同活動、特に家畜に由来する食品の輸出との関連で、獣医活動を強化する。

さらにシュミットは説明した：この対応は、ドイツの畜産物の説得力を高め、そして畜産物の輸出分野での連邦農業省の国際的な位置を、明らかに向上させる。第三国との相互的な共同活動について、副主任獣医役員 Dr.デイトリッヒは、連邦農業省において10年以上前から課長として活動し、この10年間に世界家畜健康組織（OIE）において、ドイツのエキスパートとして尽力してきた。

彼は、ドイツ連邦の獣医活動の指導者として、また副主任獣医役員―第三国交渉者として、さらにヨーロッパ同盟においても、世界家畜健康組織代表として国際的な代表となっている。Dr.デイトリッヒは、輸出に際して、獣医学上の業務をこなすこととなる。

2016・1・18

青森中央学院大学

中川 一徹